

三次看護専門学校 授業要項 実務経験のある教員等による授業

科目	老年看護学概論			担当講師	専任教員
学科名	学 年	クラス	単位 (時間数)	授業の種類	実 施 時 期
第二看護学科	1年		1 (15)	講義	令和5年前期
科目目標 1 老いの実態と推移を知り、老年期の心身の変化を理解できる 2 生涯発達の視点からみた老年期の発達課題を説明できる 3 老年期における健康の考え方が理解できる 4 わが国の高齢者の保健統計から、健康状態と生活、世帯・家族と社会関係に関する傾向が理解できる 5 高齢者の暮らしに関連する社会保障制度の変遷をふまえ現行制度の成り立ちを理解できる 6 高齢者の権利や尊厳を守るための倫理的課題と看護のあり方を理解できる 7 高齢者の特徴からみた高齢者看護の概要が理解できる					
授業概要 胎児期～成人期において多様な時代を生き抜いてきた高齢者を一人の人として統合的に理解し、尊厳をもって看護するための基礎知識の習得を目的とする。ここでは、老年期を生きる人の特徴と超高齢社会の現況、社会保障、高齢者の権利と倫理的課題、老年看護の目的と看護の特徴について学ぶ。					
卒業時到達目標との関連 DP- ①・②・3・4・5・6・7・8・⑨・10・11・12					
回数	時間数	授 業 内 容			
1	2	1 老年期を生きる人の理解 1) 高齢者の定義 2) 加齢と老化 3) 加齢に伴う変化 4) ライフストーリー			
2	2	5) 老年期の発達課題 6) 老年期における健康の考え方			
3	2	2 超高齢社会の現況と社会保障 1) 厚生統計からみる高齢者像			
4	2	2) 暮らしを支える社会保障			
5	2	3) 高齢者の権利擁護			
6	2				
7	2	3 老年看護の役割 1) 老年看護の定義と目的 2) 老年看護の特徴			
8	1				
		【テキスト・参考書】 ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院			
		【成績評価の方法】 ■ 筆記試験 レポート ワークへの参加度			

三次看護専門学校 授業要項 実務経験のある教員等による授業

科目	老年援助論 I			担当講師名	専任教員
学科名	学年	クラス	単位 (時間数)	授業の種類	実施期間
第二看護学科	1		1 (30)	講義	令和5年前期
科目目標 1 加齢に伴う健康・生活への変化を体験する高齢者の豊かな老いに向けた援助のあり方を全人的に考えることができる 2 身体の形態・機能、心理社会的側面の加齢変化と生活への影響を理解できる 3 高齢者に特有な老年症候群とフレイル、生活不活発病の関係を理解できる 4 地域包括ケアシステムや地域共生社会の概念を理解できる 5 施設における看護師の役割が理解できる 6 高齢者を介護する家族の看護が理解できる 7 老年症候群・疾患を有する高齢者に必要な看護援助のあり方を説明できる 8 高齢者の尊厳ある死に向けた援助方法が理解できる					
授業概要 1 人生100年時代といわれ、20～30年にも及ぶ高齢期をより豊かに生き抜くために、寿命の延長という量から、よりよい生活の追求という質への価値転換に焦点をあて、老年期の「自立して生活する時期」「ゆるやかに老いていく時期」「要介護状態にある時期」の各時期における人生・生活課題を学習し、高齢者が自分らしく、よりよく生きていくための援助方法を学習する。 2 高齢者の加齢変化にともなう身体機能の変化を理解し、生活への影響と身体機能を維持するための援助方法について学ぶ。 3 地域から施設までの様々な高齢者の生活の場における地域包括ケアのありかたや生活の場における看護の役割を理解する。 4 老年症候群や疾患を有し生活機能が低下している高齢者の、持てる力を活かした生活支援の方法を演習を通して学ぶ。 5 人生の最終段階における高齢者の特徴を理解し、尊厳ある死を迎えるための、患者、家族への援助方法を学ぶ					
卒業時到達目標との関連 DP- 1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・12					
回数	時間数	授 業 内 容	回数	時間数	授 業 内 容
1	2	1 現代の高齢者の理解 1) 人生100年時代の人生設計	9	2	3 要介護状態にある高齢者の生活機能を整える看護 1) 食べる・飲むためのケア (1) 加齢変化に伴う摂食嚥下障害と看護
2	2	2 より良い老年期を生きるための準備を整える援助 1) 長寿時代の老年看護の考え方 (1) 老年看護における理論	10	2	(2) 低栄養のアセスメントと看護 (3) 誤嚥性肺炎予防の看護 (4) 経管栄養（胃ろう）
3	2	2) 高齢者の身体機能・構造の加齢変化 (1) 身体の加齢変化と生活への影響 (2) 老年症候群、生活不活発病 (3) 高齢者総合機能評価 (4) 身体機能を維持するための援助	11	2	2) 皮膚の乾燥がある高齢者の清潔ケア (1) 皮膚障害の予防 (2) 持てる力を活用した入浴援助
4	2		12	2	3) 尊厳を守る排泄ケア (1) 排泄に関わる生活調整 (2) 失禁があっても快適に生活できる援助
5	2	3 ゆるやかに老いていく時期の看護 1) 健康寿命の延伸に向けた援助 (1) フレイルとサルコペニア (2) フレイルの段階に応じた予防と看護 (3) 高齢者の社会性を高く保つ援助	13	2	4) パーキンソン病・パーキンソン症候群
6	2	2) 高齢者のメンタルヘルスマネジメント (1) 不眠 (2) 抑うつ	14	2	4 人生の最終段階における看護 1) 高齢者のエンドオブライフの概念 2) 高齢者の死に関わる権利と意思決定支援 3) 高齢者の末期段階における身体的変化と苦痛を緩和するケア
7	2	3) 高齢者の生活を地域で支えよう仕組み	15	2	4) 家族への支援 5) 臨終時・死後のケア
8	2	4) 保健医療福祉施設および住居施設における看護 (1) 介護保険施設 (2) 地域密着型サービス (3) サービス付き高齢者向け住宅 (4) 介護保険施設における看護の役割	【テキスト・参考書】 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院 3. 高齢者の看護技術 第2版 医歯薬出版株式会社 【評価】 ■筆記試験		

三次看護専門学校 授業要項 実務経験のある教員等による授業

科目	老年援助論Ⅱ（認知症看護）			担当講師	専任教員・外部講師
学科名	学 年	ク ラ ス	単 位 (時間数)	授業の種類	実 施 時 期
第二看護学科	1 年		1 (15)	講義	令和5年前期
科目目標					
1 認知症施策の理念と具体策を理解し、看護の役割を考慮することができる 2 認知症高齢者の病態的側面を理解できる 3 認知症高齢者を理解するときの視点と看護の原則が理解できる 4 認知症高齢者の尊厳と安心を支えるコミュニケーションの原則と方法を理解し実施できる 5 認知症高齢者の家族の状況や心理を踏まえた支援が理解できる					
授業概要					
認知症高齢者とその家族の尊厳を支え個別性の高い看護を展開するための知識と技術を学ぶ。授業は講義と演習で構成する。					
卒業時到達目標との関連					
DP- ①・2・3・4・5・⑥・7・8・9・10・11・12					
回数	時間数	授 業 内 容			
1	2	1 認知症の理解 1 1) 認知症の定義 2) 原因となる疾患 3) 認知機能障害 4) 認知症の行動・心理症状 (BPSD)			
2	2	2 認知症患者の理解 2 1) 認知症患者が体験している世界の体験 ①視空間失認の症状 ②レビー小体型認知症 幻視の症状 ③見当識障害の症状			
3	2	3 認知症施策の動向 1) 認知症に対するわが国の取り組み 2) 認知症施策推進大綱と看護に関連する具体策・普及啓発・本人発信支援・予防・医療・ケア・介護サービス・介護者への支援 3) 認知症医療・ケアにおける専門職との連携			
4	2	4 認知症看護の実際① (外部講師)			
5	2	5 認知症看護の実際② (外部講師)			
6	2	6 認知症の看護 (演習) 1) 認知症高齢者とのコミュニケーションの原則 2) 認知症高齢者の尊厳と安心を支えるコミュニケーション			
7	3	7 認知症高齢者の生活障害のアセスメント 8 認知症高齢者の家族支援 9 私の考える認知症看護			
		【テキスト・参考書】 ・系統看護学講座 老年看護学 医学書院 ・系統看護学講座 老年看護 病態・疾患論 医学書院			
		【成績評価の方法】 ■筆記試験			

三次看護専門学校 授業要項 実務経験のある教員等による授業

科目	老年援助論Ⅲ			担当講師	専任教員
学科名	学 年	クラス	単位 (時間数)	授業の種類	実施時期
第二看護学科	1年		1 (30)	講義	令和5年後期

科目目標

- 健康障害をもつ高齢者の検査，入院，治療，退院後の生活に向けた看護の基本が理解できる
- 高齢者のもてる力に着目した目標志向型の看護の基本が理解できる

授業概要

超高齢化社会を迎え，成人期と同様の侵襲が大きい検査，治療を受ける高齢者も多い。高齢者の意思決定支援を支え，もてる力を活用し健康の回復を目指す一方で，容易に状態の変化が起こりうるため，リスクマネジメントも重要となる。また，入院期間の短期化は高齢者も同様であり，入院中の支援が退院後の生活の質をも左右することから，患者，家族が望む生活が送れるための退院支援が重要となる。ここでは，事例を用いて，高齢者の検査・入院・手術・治療に必要な看護を，臨床で起こりうる場面から考えることで，臨床判断能力を養う。

卒業時到達目標との関連

DP- 1・2・3・4 **5** **6** 7・8・9・10・11・12

回数	時間数	授 業 内 容	回数	時間数	授 業 内 容
1	2	事例の理解 1) 大腿骨頸部骨折とその治療・経過 2) 全身麻酔の合併症と手術を受ける患者の看護	11	2	5 高齢者と医療安全 (講義・演習) 1) 起こりやすい事故とリスクマネジメント(転倒転落・チューブ類自己抜去) 2) 高齢者が安全，安楽に過ごせるための環境 3) チューブ類の管理，転倒予防の基本
2	2	1 検査を受ける高齢者への援助(講義・演習) 1) 高齢者の特徴を理解した説明 2) 検査時の援助	12	2	
3	2		13	2	
4	2	2 入院により治療を受ける高齢者への看護 1) 入院に伴う環境の変化と影響 2) 慢性疾患を抱える高齢者(既往歴と現病歴)	14	2	6 リハビリテーションを受ける高齢者への看護 1) 高齢者のADL拡大の支援 2) ICFモデルによる目標志向型の看護の展開 3) できるADLと使えるADL 4) 多職種連携 5) 安心して暮らせる在宅支援 6) 退院調整・退院支援
5	2	3) 高齢者の検査所見と術後合併症を予測する(高齢者の予備力，適応力) 4) 意思決定支援	15	2	
6	2	3 薬物療法を受ける高齢者への看護 1) 加齢による薬物動態(多剤併用や眠剤の使用による有害事象) 2) 安全な服薬			
7	2	4 手術療法を受ける高齢者への看護(講義・演習) 1) 高齢者に特有な術後合併症 2) 手術療法に伴う環境の変化がもたらす影響(せん妄)			【テキスト・参考書】 1 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院
8	2	3) 症状が乏しい高齢者の状態の変化			
9	2				
10	2				
【成績評価の方法】					
■ 筆記試験					